

私もチャレンジ

栃木市立合戦場小学校

五年

林野

紗奈 女

私は、生まれつきどうの病気をもちてい
ます。今後も完治するとはななと、薬を飲ん
だり、治りばうせたりしてすごしていかなけ
ればなりません。体の中は、心臓を動か
すためのペースメーカーという機械が入り
ます。そのため、健やかな人達よりできる
ことが限られてくるのです。

たくさん歩いたり、走ったりすることや運
動も制限があります。

そのため、学校で運動会や体育祭など
大きな行事がある時は、お母さんと先生方で
話し合いをしてくれます。私にとって何が一
番良くて、安全に参加できるかをみんなで考
えていると聞いています。

私は、友達からもたくさん人の親切をもらっ
てきました。例えば、体育の時にみんなと同
じように片づけをしようとしていると、

「大丈夫だよ。紗奈ちゃんは、けがをしたら大変だから、私がやるから。」
と、声をかけてくれました。

運動会の時も、係の準備や片づけをしようとする友達から、
「紗奈ちゃん、階段でころんだら危ないよ。ゆっくりね。私が持つていくから。」
と、言ってくれました。私は、まんが時いつもたくさんの人達に助けられながら生活しているんだと感じています。

体のことを気づかってくれる友達に、私は何をすることが出来るのだろうかと思いました。私にできることなんてあるのかなと思いました。立派なことはできなくても、ふだんの学校生活でやることなら大丈夫がもし木がないと思ひ、友達が落としたえんぴつをひろったり、忘れ物を借したりしました。その度に必ず「ありがとう。」という言葉ももらい、その一言で心の中がほわんと温かくなりました。

家庭科で初めての実習では、使った流しの

ふたま、グループで次の日に閉めることにな
ってしまいました。私は、七木がいよいよおとな
と気がなっていました。そこで、みんなと
ひと足早く学校に来ている私は、その日早
く来た友達に話をかけて一緒に全部のグル
ープのふたを閉めました。先生もおどろいて、ほ
めてくれました。役に立つことは、とても
うれしく思いました。

つ木からも、おめでとうと褒めて、み
んが少しごきげんがよくなることま
いまたいと思えます。

自分が、今までいしてもらった数えき
れない親切や思いやりを、私もみんなに返し
ていけたらいいです。

私たちの学校の合言葉「チカヒ」を、
実行したいと思えます。